



停泊している船を画面いっぱいに、白い色も効果的に表現されています。うしろの石垣もていねいに描かれ運河のようすが伝わります。

『運河にたたずむ金龍丸』

小樽市 稲穂小学校3年生 掛端 太郎さん 富良野市 立山部小学校5年生 立花 明季さん



昔からある古い建物の様子をくわしく観察して描かれています。色づかひも古い建物に見えるよう工夫して表現され、とてもすばらしい作品です。

『古い建物』



今にもシュートを放つという瞬間が見事に表現されています。手前のディフェンスの選手との重なりで迫力を増しています。

『バスケットをする私』

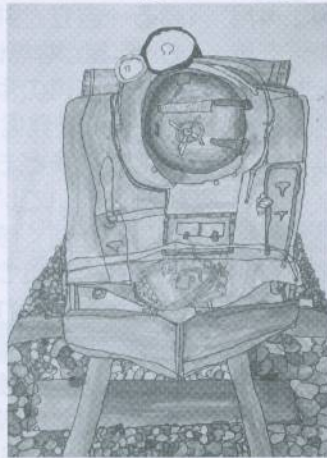
苫小牧市 拓勇小学校6年生 田口 沙羅さん



D51の力強さをゴツゴツした線で表し、どっしりした感じを色で表しました。いっしょうけんめい働いてくれたD51に語りかけるようにかいたことがわかります。

『D51』

安平町 退分小学校4年生 竹田 葵さん



今にもおそいかかってくるかまきりに立ちむかう様子を紙版画で表しています。版には、毛糸やダンボールなどを使い効果的に生かされています。

『ねらっているかまきり』

苫小牧市 植苗小学校2年生 越前谷直紀さん



秋のやわらかい光と長い影が澄んだ空気と共に表現された見事な作品です。細かく月念に描かれた枝とおさえられた色鏡が少女の思いを静かに伝えることに効果的です。

『光と影』

釧路町 遠矢中学校2年生 北谷 真唯さん

第38回教育美術展奨励賞作品より

<http://hokuzou.kir.jp/> で他100点の作品もご覧いただけます

検 索

▶北海道造形教育連盟◀

<目 次>

- ・第38回教育美術展奨励賞作品 1〈表紙〉
- ・北海道造形教育連盟会長挨拶 2
- ・今年度の研究について 3
- ・第62回全道造形教育研究大会 帯広・十勝大会 ... 4~5
- ・ネットワーク部会の取り組みから 6
- ・活動報告(空知美術教育研究会・釧路造形教育研究会) ... 7
- ・第39回教育美術展応募要項について 8



プールのコースをたてに配置した大胆な構成はだれもまねのできない個性的な表現です。画面から「やった一位だ」という声が聞こえてきそうです。

『プールで1いをとったよ』

札幌市 本郷小学校1年生 本間 伸吾さん



北海道
造形教育
連盟報

No.134 2012.7.1発行
発行 北海道造形教育連盟

会長 稲貫 川順 (札幌市立旭小学校長)

事務局長 益村 豊 (札幌市立資生館小学校長)

事務局 札幌市立資生館小学校

〒060-0063

札幌市中央区南3条西7丁目1番地

TEL(011)204-9811・FAX(011)204-9815



全国大会の成果を受けて

北海道造形教育連盟
会長 稲實 順
(札幌市立旭小学校長)

■62年の歴史を刻む

北海道造形教育連盟は、昭和26年11月24日に北海道図画工作連盟として設立されました。私たちは、子ども一人一人が自らの表現に自信をもち、安心して活動を楽しむ造形教育を求めて研究を積み上げてきました。今年度で62年の歴史を刻む当連盟は、子どもたちと共に歩んだ創造の道でもあります。4月28日(土)に委員総会を開催し、前年度の成果を確認し、菅原前会長から襷を引き継ぎました。そして、新しい体制で今年度の方針を推進し、未来を見据えた組織的な強化と研究や研修の充実を目指していきたいと考えます。

■全国大会の成果を受けて

「全国図画工作 美術教育研究大会 in 北海道」が、約千名の参会者で開催できたのも、分科会で真剣な討議ができたのも、3日目の全体会でたくさんの発信ができたのも、北海道造形教育連盟が目指す理念(授業で勝負)を運営や授業の中で具体的な形として示すことができたからだと思います。これまで本連盟が積み上げてきた実績を生かしながら、どうすれば参加してくださった先生方が満足し、たくさんのお土産をもって帰っていただけるのか、また、授業をする先生方が主役になる研究大会とはどのような形にしたらよいのかということを実現化しました。その最たるものが3日目の全体会に集約されていたと思います。授業者全員がステージに上がり、前日の授業のプレゼンが映像として流れ、扉ごとのまとめが発表されました。まさしく「語り合う 学び合う大会」が北海道から全国に発信された3日間でした。

私たちはあくまでも教育研究団体です。授業で勝負し、その価値を広げていくことが本務です。この形が帯広・十勝大会へ、次のいしかり大会へとつながることを期待します。

■札幌(全国大会)から帯広・十勝へ

第61回全道造形教育研究大会は、札幌市造形教育連盟が中心となり、全道18のサークルと共にチーム北海道という形で、子どもを主役に置いた“あったかな”大会となりました。

全国各地の方々と共に札幌の地で「わたし」を創る～自立と共生の造形教育をめざして」の主題のもと、豊かな感性を育み、子どもが自ら価値を創る「自立」と友達のよさに共感できる「共生」の造形教育の重要性を発信するものでした。大会参加者からは、「全ての子どもの表情が、授業が進むにつれ、生き生きと輝いていました」「授業者の準備が重要であることを強く感じました」「題材設定の難しさや単元の進め方について考えさせられました」など多くの声が寄せられ、提案性の高い実践が大会成功の鍵となりました。

さて、今年は雄大な自然に囲まれた十勝地方の産業・経済の中心地帯広市において、「第62回全道造形教育研究大会 帯広・十勝大会」が開催されます。

特に、帯広市教育研究協議会図工美術部会並びに十勝造形サークルの先生方には、3力年の長期にわたり大会に向けての研究推進や運営、連絡調整を行い、本大会を開催されますことにその意気込みを強く感じます。

本大会のテーマ「つくるとき・つながるとき」は、10年前に紡いだ「つくる」という夢を昨年度の大会と絡め、広い大地に紡いだ夢を次につなげていきたいという願いが込められていると思います。

この大会に参加して、私たちは改めて造形美術教育の価値を再発見することだろうと思います。大会で得られた成果や発見を広げながら、造形美術教育の価値が社会に広がっていくことを心から願っております。

北海道造形教育連盟役員(部長会構成スタッフ)

- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| ○会長 稲實 順 (札幌市立旭小学校長) | ○事務局次長(研究) 川島 正夫 (札幌市立手稲北小学校) |
| ○副会長 島田 茂 (石狩市立緑苑台小学校長) | ○事務局次長(研究) 湯浅 大吾 (札幌市立拓北小学校) |
| ○副会長 渡辺 盛二 (旭川市立近文第一小学校長) | ○事務局次長(研究) 館内 徹 (札幌市立あやめ野中学校) |
| ○副会長 中村 吉秀 (函館市立桐花中学校長) | ○事務局次長(事業) 東 尚典 (札幌市立平岡中央小学校) |
| ○副会長 奥田 泰朗 (弟子屈町立昭栄小学校長) | ○事務局次長(事業) 福島由紀子 (札幌市立円山小学校) |
| ○副会長 後藤 和司 (札幌市立平岸中学校長) | ○庶務部長 吉伊 宏子 (札幌市立幌西小学校) |
| ○監査 辻 敦郎 (帯広市立帯広第五中学校長) | ○広報部長 櫻田 悟 (札幌市立平和小学校) |
| ○監査 山口 浩 (千歳市立泉沢小学校教頭) | ○事業活動部長 八田 博之 (札幌市立中央小学校) |
| ○事務局次長 益村 豊 (札幌市立資生館小学校長) | ○事業研修部長 石川 早苗 (札幌市立八軒東中学校) |
| ○会計 三井 哲 (札幌市立平岡中央小学校長) | ○研究部長 堀口 基一 (札幌市立緑丘小学校) |
| | ○ネットワーク 小林 知広 (札幌市立幌西小学校) |



“わたしを創る”～自立と共生の造形教育をめざして～

北海道造形教育連盟
研究部長 堀口基一
(札幌市立緑丘小学校)

造形パワースポット、帯広・十勝の地へ

今年も清々しい北海道の夏に全道造形教育研究大会が開催されます。毎年の全道大会に集う造形教育に関心を寄せるみなさんとの出会い、語らい、懇親のひときは、不思議と同窓会のような心地よさを感じさせてくれます。

今年は、広い大地と実り豊かな自然いっぱいの帯広・十勝が造形を語るパワースポットとなります。造形教育に寄せられるたくさんの関心と、子どもたちに向けられる心温かなたくさんの人々の思いが融合した素敵な大会となることでしょう。7月27日(金)にはどうぞ奮って帯広・十勝の地へお運びいただくと嬉しいです。

全国大会から

さて、昨年の全国造形教育研究大会北海道大会には約1000名を越えるみなさんが来道し、授業参観や熱い研究討議、ワールドカフェ方式による話し合いなどを行いました。2つの会場のどの授業にも熱心でありかつ優しいまなざしがそそがれ、授業を提案していた教師陣だけでなく、子どもたちにもたくさんの指導をいただくことができました。幼稚園、小学校、中学校、高校、大学と様々な校種をまたいでの授業実践を公開し、研究を深めることができました。

話し合いは、校種を越えて共通のテーマで語り合う「扉」方式をとりました。これまでの研究でも深められてきた扉ですが、昨年度は3つの扉に整理をして研究を進めました。1つ目は題材や授業を「子ども出発で見つめ直し、つくり直そう」という「こどものまなざしの扉」です。2つ目は「授業を構築する教師の指導をじっくり見つめ直し」ことを主眼とした「教師のまなざしの扉」。そして3つ目が「学校や授業の様々な可能性を模索し、子どもたちの未来を展望」する「未来へのまなざしの扉」です。それぞれの扉では、学習指導要領で大切にされている学力と実際の授業の重なり方や、題材と子どもの学びについて熱心な討議がなされました。

これらの扉の視点は、今回の帯広・十勝大会にもしっかりリレーされています。

“わたしを創る”大会に…

北海道造形教育連盟では、5カ年計画で研究主題を設定しています。今年度はその継続研究の4年目の年となります。

【研究主題】

“わたし”を創る

～自立と共生の造形教育をめざして～

この研究主題の「わたしを創る」には、自己実現を目指した造形活動の基本であり目標である姿が込められています。形や色の造形ことばを紡ぎ、イメージという布を織り上げる様は、作品づくりにとどまらず、まるで自分自身を見つめ、つくりあげていく営みといえます。

また「自立と共生の造形教育」の部分には、一人一人の確かな学びと、仲間とのつながりによって他者を知り、己を知る「共学び」の姿が描かれています。わたしを創るという創造的な営みの中において、友達や教師、家族といった他者の存在は不可欠です。他者との学び合いの中から、“わたし”を見付け、見つめ、よりよい自分を創り続けるのですから。

不易(変わらないもの)と流行(変わるもの)

昨年度、小学校で新しい学習指導要領が本格実施され、今年度は春から中学校で本格実施を迎えました。このようなタイミングでは、造形教育における不易と流行が今一度確かめられ、題材を見つめ直すよい機会となる大会になります。

日々の授業を通じ、子どもたちにどのような題材を提案し、子どもたちのどのような姿に価値付け、そして私たちはどのような学びを実感しているのでしょうか。この帯広・十勝大会を造形教育の不易と流行を確かめ合う場として、是非学び多いひとときとなって欲しいと願っています。

さあ、はじめましょう！帯広・十勝大会

最後になってしまいましたが、2カ年に渡る大会の準備、本当にお疲れさまでした。たくさんの思いや行動力をつなぎ、多くの決断を繰り返して来た熱い熱い日々がもうすぐ結実します。この大会を通じて「わたしをつくり、つながり、豊かな心をはぐくむ」ことができるよう、さらに学んでいきたいと思えます。



ご挨拶

造形教育でつながり、日々造形教育に情熱を傾注する皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、帯広・十勝大会は「つくるとき、つながるとき」を大会テーマに、「豊かな心をはぐくむ造形教育」を研究主題として、広い大地に紡いだ夢をふたたび皆さんの力で大きく広げて、大いに語り合う場とします。

ぜひ、色々な空の色の十勝にお越しください。
「つくるとき、つながるとき」

フォーゲットミーノットという美しい青は「忘れなくて」という意味。10年ぶりの帯広・十勝大会はこの10年間、紡いできた夢を大地にひろげてみる大会です。

多くの方々にご参加いただけますようご案内申し上げます。

第62回 全道造形教育研究大会 帯広・十勝大会
実行委員長 辻 敦郎

第62回 全道造形教育研究大会 帯広・十勝大会

二次案内

2012年 7月27日(金)

帯広市立帯広第五中学校 (メイン会場)
北海道立帯広美術館 (鑑賞授業公開)
ランチョ・エルパソ (開会式・レセプション会場)

主催

北海道造形教育連盟
帯広市教育研究協議会 回工美術部会
十勝造形サークル

後援

北海道教育委員会・十勝管内教育委員会連絡協議会
帯広市教育委員会・帯広市校長会・十勝小・中学校校長会
帯広市教育研究会・十勝管内サークル協議会
帯広幼稚園協会・北海道立帯広美術館・帯広百年記念館
帯広市PTA連合会

帯広・十勝大会事務局《連絡先》

帯広市立西陵中学校 (事務局長 根岸邦昌)
〒080-0028 北海道帯広市西18条南2丁目2番地
☎(0155) 33-3007 fax (0155) 33-9249
E-mail : seiryu@f1.octv.ne.jp



作：帯広市立つじが丘小学校 高橋 賢匠くん (4年)

参加申し込みにあたって

大会の参加申し込みは、(株)JTB北海道 帯広支店が窓口になっています。大会参加費などの支払いにつきましては同封の参加申込書をご覧ください。

- 申込先 (株)JTB北海道 帯広支店 ☎0155-22-7451
- 締切 2012年6月29日(金)
- 大会参加費 4,500円

<http://obihiro-tokachi.blogspot.jp/>
ブログ「十勝アート」にて最新情報更新中です

研究概要

「つくる」ことで「つながる」ことができる。これが造形教育のすばらしさである。大会テーマにはそのような思いをこめました。そしてこのテーマのもと、「みなさんと語り合いたい視点」は右の3つです。この、3つの視点をワークショップ・公開授業・シンポジウム・ワールドカフェ・作品鑑賞・分科会という様々な場面で語り合っていきます。10年ぶりの帯広・十勝での大会です。子どもたちも大人も楽しめる大会にしたいと、現地スタッフ一同頑張って準備を進めております。この夏は是非、帯広・十勝へ！皆様の参加をお待ちしています。

研究部長 梅津 美香

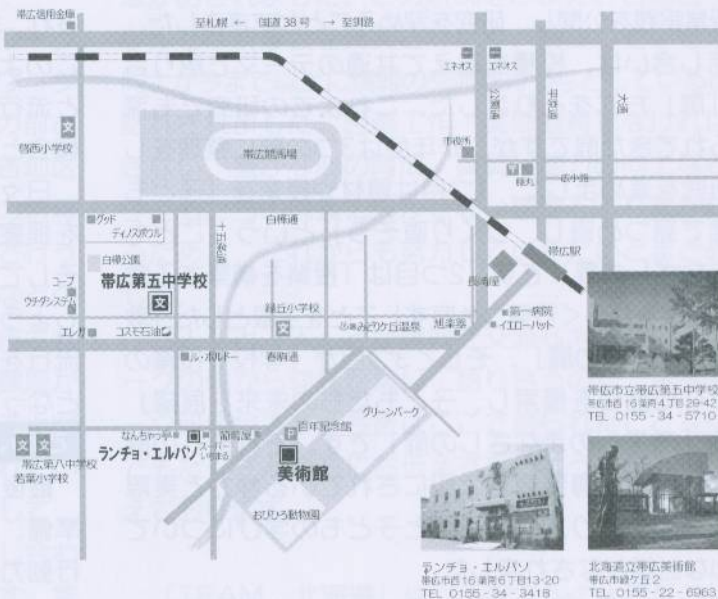


《帯広・十勝大会シンボルマークデザイン》
帯広第一中学校 中村 詩織さん (3年)

まず、帯広・十勝の大会なので帯広市の象徴である白樺に「62」という文字を描き入れました。更に三本の筆で「つくるとき」を表し「つながるとき」は季節が回るイメージで、葉を紅葉させました。

「つくるとき・つながるとき～豊かな心をはぐくむ造形教育」 語り合いたい3つの視点

- 視点1 「つくる」
「形で語る・色で語る」
「造形を深める」ということ
- 視点2 「つながる①」
「学びの場」
学級づくりと授業について
- 視点3 「つながる②」
「研修・研究」
教師もつながるということ



帯広市立帯広第五中学校
帯広市西16条南4丁目2番地
TEL 0155-34-5710



ランチョ・エルパソ
帯広市西16条南6丁目13-20
TEL 0155-34-3418



北海道立帯広美術館
帯広市緑ヶ丘2
TEL 0155-22-6963



ご存知ですか？「ネットワーク研修会」

北海道造形教育連盟

ネットワーク部長 **小林 知 広**
(札幌市立幌西小学校)

毎年、連盟報（夏号）にネットワークのページをいただき全道会員の皆様にネットワーク部の活動を紹介させていただいています。

ネットワーク部の活動は

- ・ ホームページ（以下HP）
- ・ メーリングリスト（以下ML）の運営
- ・ 地区サークルの活動パネル作成
- ・ 年2回のネットワーク研修会

などがあります。ご存知でしたか？

HPは、たくさんの方々にご覧いただき大変感謝しております。一昨年よりブログも加え、よりタイムリーな話題をお伝えしております。また、各地区サークルでもHPやブログを開設し各地区からの情報発信も行っています。この夏の大会を行う帯広・十勝では「十勝deアート(<http://obihiro-tokachi.blogspot.jp/>)」のブログから、最新の情報が発信されています。

そこで、今回は年2回行われている「ネットワーク研修会」を紹介します。突然ですが、ネットワーク研修会をご存知でしょうか？4月の委員総会の前と12月の北海道教育美術展審査研修会の際に、各地区のネットワーク部員が集まり各地区サークルの情報交流を目的とした研修会です。地区サークルで行った授業実践や作品展、子どもの作品を語る会などの事業、各種研修会など、たくさんの活動が報告されます。その中から、地区サークルでの成果と課題が話題となり交流されます。ここで、語られたことが各地区に持ち帰られ、実践や各事業に活用されています。ここ数年、美術館を活用した授業に関して、各地区での実践やのアイデアが交流され、話し合われたことが各地区の活動に活かされています。鑑賞プログラムはもちろんのこと、ゲストティーチャーに学芸員さんを招いた実践や美術館で行っている



教育参画事業とのタイアップなど、多くの成果につながっています。

一方、各地区サークルが抱えている悩みや課題も交流されます。今年度春のネットワーク研修会で話題となったこととしては、学校の統廃合が進むにつれ、教員の数も少しずつ減少してきていることです。それとともに図工・美術の教員も不足してきている実態が話されました。この状況をふまえ、各地区サークルでは研修会を充実させたり、隣接している地区同士が今まで以上に情報の交流を行うなどしていると、話されました。図画工作・美術教育でなければできない、豊かな心の育成、資質・能力の向上など、子どもたちの成長に欠かせない感性をより豊かにするために、これからも努力していきたいとまとめました。

「人」と「人」とが情報を交流し大きなネットワークの輪から仲間が集い・語り合うのが、ネットワーク研修会です。今後はここで語られたことを少しでもたくさんの方にお伝えできるようにしたいと考えております。

「TEAM 北海道」は、みなさんの大きな力に支えられられながら、なお一層の「人」と「人」とのつながりを大事に進みたいと考えています。

空知美術教育研究会の活動

岩見沢市立第二小学校 中澤 孝仁

空知美術教育研究会の代名詞となっている「全空知子どもの作品を語る会」も、次年度50回目を迎えます。その記念すべき大会に向けて準備を進めています。

「既存の研究会にとらわれない、もっと自由な研究会を行いたい」「子どもの作品を通して子どもを中心に据えた研究会を行いたい」との思いから始まった「語る会」。会員や参加者同士の学習の場にとどまることなく、会場校の児童生徒・保護者・教師たちに、図工美術教育の楽しさや重要性・指導方法などを伝える場にもなっています。

「図工美術は教える教科ではない。ひきだす教科である」

そんな諸先輩方の思いを継承しつつも、時代と現場のニーズに即した活動を続けています。

【主な活動内容】

- ・全空知子どもの作品を語る会（9～11月）
- ・美術教育サミット（8月10～11日）
- ・実技講座
- ・裸婦デッサン会
- ・新春ゼミ（1月7日）
- ・会員作品展（2月1～15日）
- ・広報誌の発行（年5回）



今年度の「全空知子どもの作品を語る会」は10月24日（水）に秩父別町立秩父別小学校にて開催されます。例年、空知以外からも多くの参加をいただいています。今年もたくさんの仲間の参加と、たくさんの作品との出会いを楽しみにしています。

活動内容や案内・広報等はホームページでも閲覧できます。詳しくはwebで。

空知美術教育研究会

検 索

釧路造形教育研究会の活動紹介

北海道教育大学附属釧路小学校 若林 朗子

釧路造形教育研究会は昭和35年の設立以来、管内の図画工作科・美術科の教員を中心に、造形教育に関わる指導法の改善・充実について研究を進め、資質の向上に努めています。釧路管内は新しい美術教員が養成される場が無くなったこともあり、美術を指導できる教員が不足しており、釧路市内の大規模校さえ美術の免許を持たない教員が指導をしているのが現状です。そこで、釧造研が力を入れているのは造形教育の教授や教材に関する研修会の開催です。主に会員が講師になり、これまで年2回のペースで風景画・人物画・水墨画・木版画・塑造の研修会を会員以外の小中学校教員向けに開催し、地域の『造形教育への理解の向上』を目指してきました。また、これまでも、研修会の案内や、取組内容の紹介等で釧造研ホームページ（<http://senzouken.kir.jp>）を活用してきましたが、今年度は新たな取り組みとして、これまで会員が実践してきた小学校図画工作科・中学校美術科の指導案を学年・領域ごとに掲載していき、指導に悩む先生方の拠り所にしていくことができるようにしていきます。「造形」を通して子どもをはぐくんでいくことの大切さを伝えながら、会員外の先生方をどんどん巻き込んでいくことができる釧造研の活動にしていきたいです。

【主な活動内容】

- ◆4月18日 研究部会
- ◆7月 5日 実技講習会①（釧路教育研究センター講座との共催）「水彩画について」
- ◆7月24日 研究授業①（小学校2年 図工）附属釧路小学校
- ◆10月18・19日
研究授業②（中学校1年 美術）附属釧路中学校
- ◆1月19日 実技研究会②
講師 高橋 由紀雄先生（アトリエ666）
- ◆2月 研究部会 景雲中学校



第39回北海道教育美術展

作品募集のお知らせ

応募の対象

☆道内の保育園、幼稚園、小学校、中学校に在籍する園児、児童、生徒

応募の規定

☆絵画や版画、デザイン画などの作品で学校（園）を窓口として応募する。

☆大きさは四つ切りとする。それ以下の作品は四つ切りの台紙に貼る。ただし中学校については八つ切りの作品でも受け付ける。

☆今年度内に作成された作品で一人1作品の出品とし、作品裏面に応募票を貼る。
(応募票は剥がれ落ちないようにしっかりと固定してください。)

～作品規定～

- 積み重ねてもつぶれない、かさばらないこと
- 接着が頑丈で剥がれたり外れたりしないこと
- 画鋏展示ができる重量であること

問い合わせ 札幌市立中央小学校 八田博之
TEL : 011-261-6568 FAX : 011-261-5723

◇審査研修会と一緒に参加しませんか？◇

12月27日（木）、28日（金）の二日間、札幌市立旭小学校で審査会が行われます。例年、札幌市内の先生方はもとより、各地区サークルからもたくさんの先生方が審査会に参加されています。全道から集まった2万点近くの作品を見ることを通じて実践について研修しあう絶好の機会です。

締切・送付先

☆平成24年12月19日→締め切りを過ぎたものは受付できませんのでご注意ください。

☆〒062-0912 札幌市豊平区水車町3丁目1-22

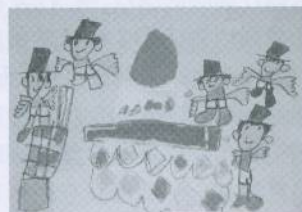
札幌市立旭小学校 教育美術展係 宛

北海道教育美術展

会期：平成25年1月10日（木）～14日（月）

会場：道新ぎやらりー（札幌市中央区大通西3丁目）

- 主催：北海道造形教育連盟・北海道新聞社
- 後援：北海道教育委員会
- 協賛：サクラクレパス



あ と か き

連盟報134号が完成しました。昨年の全国大会のあと、組織が一部改変され、わが広報部も一新されました。この134号が発行されるのもみなさんの「あったかい」心の結集のおかげとあらためて感じております。また、地区サークルの方々には、お忙しい中記事や情報提供を快く引き受けていただき厚く感謝いたします。

さて、全道造形教育研究大会 帯広・十勝大会が迫ってまいりました。「つくるとき・つながるとき」という大きなテーマのもと、今までの力をつなぎあい、広大な帯広・十勝の大地から**あったかな**造形教育を発信していきましょう。帯広にて全道の仲間とお会いできることを楽しみにしております。

<北海道造形教育連盟 広報部> 小林 充 裕・本 多 隼 人・櫻 田 悟・松 本 和 彦